

NPO Wireless Brain Network(NPO WBN) 後援事業報告書

事業名：第一回「新しい医療・介護のテクノロジー」シンポジウム

開催日時：平成 28 年 10 月 7 日（金） 13:00～17:00 （機器展示：10:00～17:20）

開催場所：前橋工科大学 1 号館・151 教室（講演会）及び会議室（機器展示）

主催：NPO 法人 バイオフォーラム

共催：群馬県、前橋工科大学、群馬大学

後援：前橋市、群馬県商工会議所連合会、NPO 法人 ワイヤレスブレインネットワーク

参加者：243 人

事業報告

NPO 法人バイオフォーラム理事長白尾智明氏（群馬大学医学系研究科）より開会の挨拶があり、今後の高齢化社会に向けた医療と介護の新たな手法とそれを実現するための技術開発の必要性が述べられた。引き続き、前橋工科大学学長星和彦氏、群馬大学副学長和泉孝志氏、群馬県健康福祉部副部長川原武男氏からシンポジウム開催を祝う挨拶があった。

光岡俊成氏（内閣府）による特別講演「新しい社会経済システム Society5.0 の実現を目指した地域における人・くらし民間研究開発プロジェクトの公募事業」では、演題についての概要説明と公募・認定プロジェクトを実施するに至った背景が述べられた。この事業への応募資格団体は、民間企業、社団法人、財団法人、医療法人、NPO 法人など法人格を有する民間の機関であり、当シンポジウムに参加した各機関からも多数の応募を期待しているとのことであった。



一般講演は、介護・医療に関する講演であった。まず、高橋道也氏（社会福祉法人恵林）から「施設サービスの現状と現場からの声」と題した講演があった。介護施設等における問題点と、それらを施設においてどのように改善・解決しているかが紹介された。



次に、中沢信明氏（群馬大学理工学府）から「介護ロボットとヒューマンインタフェース」と題し、センサーとロボットを繋ぐ様々なインタフェースの開発と将来への課題について、中沢氏の研究室における成果の紹介があった。



最後に、杉本厚子氏（群馬大学医学部附属病院）による「医療現場での産学連携の取り組み ～車いす点滴スタンド連結器の開発～」と題した講演があった。様々な形の車椅子に容易に連結可能な点滴スタンドアタッチメントを群馬県内企業と開発し実用化した経緯と、製品について紹介があった。医療現場の発案から開発参加企業の募集、その後の開発課題打ち合わせ、看護師側からの更なる改良要望と実現へ向けての共同作業など、実用化に至る稀有な開発ドキュメントはとても興味深いものであった。実

用化された製品は本シンポジウム機器展示にて展示紹介されていた。

講演終了に際し、群馬県商工会議所連合会会長蘇我孝之氏および群馬県老人保健施設協会理事長矢島祥吉氏より総括がなされ、シンポジウムは終了した。関連機器展示室では群馬大学医学部附属病院、株式会社ミツバなど10社以上が、医療・介護等関連する多様な製品を出展していた。



シンポジウム終了後、参加者交流会が前橋工科大学メイビットホールで開催された。NPO 法人バイオフォーラム事務局長小金澤紀子氏の司会により、開催実施責任者今村一之氏（NPO 法人バイオフォーラム理事）からの開会挨拶、群馬大学前学長鈴木守氏およびNPO 法人ワイヤレスブレインネットワーク理事長堀越淳からの挨拶、乾杯の発声があった。参加機関関係者と学生とを交えて、楽しく有意義な情報交換会となった。

このシンポジウムには、NPO 法人ワイヤレスブレインネットワークの理事長、副理事長、岡田理事、狩野理事及び土屋会員が参加支援した。